



19時からパパも子育て

子育てしやすいように職場環境を整えることは、従業員のやる気創出や業務の効率アップが期待できます。こうした取組の積み重ねが少子化克服への一歩です。子どもは社会の宝。仕事と子育てを両立しやすい環境づくりに会社全体で取り組んでいる企業へおじゃましてきました。



秋田協同印刷株式会社（秋田市）

業種:製造業 従業員数:82名

<http://www.akyodo.co.jp>

創業75年を迎える印刷会社。秋田県内のほか首都圏にも多く顧客を持つ。同社の手がける地域特化型電子書籍ポータルサイト「akita ebooks（アキタイーブックス）」は2015年度のグッドデザイン賞を受賞。

機械化に伴う仕事の「見える化」で 時間外ゼロを達成！

秋田協同印刷では、10年ほど前に高効率の製本機器を導入。以前は外注していた製本を自社で行えるようになり、サービスの精度が格段に上がりました。印刷物を期限までに仕上げるため、導入当初は受注が増えると、自ずと所定外労働も日常化する状態だったといいます。

そこで製本部を中心に、現場の環境改善に着手しました。一つは中途採用等の増員で人手不足を解消すること。もう一つは、担当者が進捗状況の報告を行い、忙しい所には部署の垣根を越えて人員を調整し、早めに次の部門へまわすこと。取組を習慣化させて約10年。今年に入り、製本部は初めて時間外ゼロの月を達成させました。



●従業員から
 (製本部 黒沢次長、制作部 小熊副主査)

状況を見極め、スピードと精度をアップ

黒沢次長は製本部の効率改善を手がけたリーダーです。「以前は、皆が忙しいと言っても、何がどの程度忙しいのかわからない。試行錯誤を重ねてきめ細やかな連絡・協力体制を構築し、目の前の仕事を具体化させることで、全体像の共有とスピード化ができるようになりました」。

印刷業務は仕上がりまでの工程がいくつかに分かれています。製本から早く次の工程に進めることで、それ以外の部門の人たちもスムーズに作業をこなすことができます。

小熊副主査は、奥さんも同じ会社に勤務する2児のパパ。「その日の状況に合わせ、どちらかが早めに仕事を切り上げられるよう夫婦で協力し、子どもたちと一緒に過ごす時間を大切にしています」。また、制作部でも、製本部に倣ってチームワークをさらに強くするための自主的な取組が始まりました。



●職場から
(吉川総務部長)

良い事例には波及効果がある

機械化により、企画、デザイン、印刷、製本から配送までワンストップで、県外からの受注にも幅広く対応できるようになりました。これまで外注に頼っていた製本を社内で行うことにより、利益の確保と時間のロスを省くことができるようになりました。

10年目にしてようやく1月と8月に残業ゼロの目標を達成した製本部。苦労を重ねながら見直した環境改善は、社内全体に良い刺激を与えています。他の部署でも「こうしたらもっと良くなるかもしれない」と積極的に意見を出して行動につなげる、サブリーダー的役割を果たす人材が成長しています。

子育てしやすい職場環境づくりは、少子化対策にもつながるはず。両立支援に向けて、今後もさまざまな取組みを実施する予定です。



効果が見られた点

- ◎機械化、人員の補完、意識の変化により、さらなる効率化を実現。
- ◎各自の報告による作業の可視化と連携で迅速に課題を解決。